

【事例4】難聴通級指導学級

学校・学年	小学校・第1学年
障害の種類・程度や状態等	難聴(平均聴力レベル右 58dB、左 65dB)。両耳に補聴器装用。

学校生活支援シート(個別の教育支援計画)

1 学校生活への期待や成長への願い(こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育ててほしい、など)

本人から	・友達とたくさん遊んで、いろいろな勉強がしたい。
保護者から	・周りとうまくコミュニケーションをとって、友達と仲よく過ごしてほしい。 ・聞こえない時や分からない時に自分で周囲に尋ねられるようになってほしい。

2 現在のお子さんの様子(得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

- ・鉄棒やダンス、縄跳びなど、身体を動かすことが好き。
- ・補聴器の電池が切れているのに気付かないことがある。
- ・主語や目的語が抜けて、相手に伝わらないことがある。
- ・発音が不明瞭な音がある(サ行音やツ音など)。

3 支援の目標

- ・自分の聞こえの状態を把握する力を高めるとともに、補聴器を適切に管理する習慣を身に付ける。
- ・聴覚を活用し、語音を正しく聞き取る力や、正しい発音を意識して話す力を高める。
- ・話し手に注目して話を聞いたり伝えたりする態度を身に付け、周囲の人とやりとりする楽しさを味わう。

学校の指導・支援

- ・机や椅子にテニスボールを付けて、騒音を減少させる。
- ・座席を前から2, 3列目の聞き取りやすい側に配置する。
- ・視覚教材を多く使い、見て分かる工夫をする。
- ・黒板側を向いたまま話さず、児童が注目していることを確かめてから話し始める。

家庭の支援

- ・休日は色々なところに出かけ、経験を多く積むようにする。
- ・知らない言葉は、文字で書き表して確認する。
- ・やりとりが曖昧にならないように、丁寧に話しをする。
- ・補聴器の掃除や管理を一緒に行うようにする。

自立活動の「流れ図」

【難聴通級指導学級】

学校・学年	小学校・1年
障害の種類・程度や状態等	難聴(平均聴力レベル右 58dB、左 65dB)。両耳に補聴器装用。
事例の概要	補聴器を適切に管理する習慣を身に付けることや、話すことや聞くことに自信をもち、伝えようとする意識を高めることを目標とする指導事例

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集

- ・補聴器を装用して、概ね音声でのやりとりが可能であるが、話がずれてしまうことがある。
- ・補聴器の電池が切れていても気付かないことがある。
- ・班での話し合いでは、周囲の話し声等により、友達の声が聞こえづらく、話し合いに入れないことがある。
- ・指示が一度では通じないことも多く、個別に丁寧な言葉かけが必要である。
- ・周りをよく見て動いているが、聞こえなかったことや分からなかったことを周囲に尋ねることができない。
- ・初めてのことに慎重になる。慣れてやり方が分かると楽しむことができる。
- ・知っている言葉が少なく、言葉の覚え間違いも多い。
- ・発音が不明瞭な音がある(サ行音やツ音など)。
- ・鉄棒やダンスなど、身体を動かすことが得意で、休み時間など、友達と進んで遊ぼうとする様子がある。

- 1 収集した情報()を「自立活動の区分に即して整理する段階

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・補聴器の電池が切れていても気付かないことがあるなど、自分の聞こえの状態を意識したり、補聴器を適切に管理したりする習慣が身に付いていない。	・他者に伝えることに不安があり、自分の意見を言わないままになってしまうことがある。	・周りをよく見て動いているが、聞こえなかったことや分からなかったことを周囲に尋ねることができない。	・補聴器を装用して、概ね音声でのやりとりが可能である。 ・周囲の話し声等により、友達の声が聞こえづらく、話し合いに入れないことがある。	・鉄棒やダンスなど、身体を動かすことが得意である。 ・発音が不明瞭な音がある(サ行音やツ音など)。	・話がずれてしまうことがある。 ・知っている言葉が少なく、言葉の覚え間違いも多い。

- 2 収集した情報()を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

- ・補聴器の電池が切れても自分では気付かないことがあることなどから、自分の聞こえの状態や補聴器の管理について意識を高める必要がある。
- ・聞き取れなかったことを周囲に聞いたりすることが難しく、分からないままになっていることが多い。
- ・友達の様子に関心があり、身体を動かして一緒に遊ぶことはあるが、会話などの場面では様子を見ている。

- 3 収集した情報()を6年後の姿の観点から整理する段階

- ・補聴器や視覚的な手掛かりなどを積極的に活用し、周囲の状況を把握する力を高める。
- ・相手の話を意識して聞いたり、主体的に自分の意思を伝えたりする力を高め、安心して周囲の人とやり取りができる力を身に付ける。

を基に - 1、 - 2、 - 3で整理した情報から課題を抽出する段階

- ・自分の聞こえの状態を把握することや、補聴器を適切に管理することが定着していない。
- ・人とのやりとりにおいて話したり聞いたりすることや、分からないことを質問したりすることが難しい。

で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
<ul style="list-style-type: none"> ・補聴器の適切な管理の仕方を身に付け、補聴器の装用により、保有する聴覚を活用できるようにする。 ・聞こえにくさや聞き取れなかったことを周囲に伝えられるようにする必要がある。周囲に伝えられるようになるために、正しい発音を習得して発話の明瞭度をあげ、相手に分かりやすく伝えられるようにする。 ・話し相手に注目し、話しを聞いたり、伝えたりする態度を身に付ける。

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として	に基づき設定した指導目標を記す段階
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の聞こえの状態を把握する力を高めるとともに、補聴器を適切に管理する習慣を身に付ける。 ・聴覚を活用し、語音を正しく聞き取る力や、正しい発音を意識して話す力を高める。 ・話し手に注目して話を聞いたり伝えたりする態度を身に付け、周囲の人とやりとりする楽しさを味わう。

指導目標を達成するために必要な項目の選定	を達成するために必要な項目を選定する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(2)病気の状態の理解と生活管理にすること。	(1)情緒の安定に関すること。 (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること。	(1)他者とのかかわりの基礎に関すること。 (2)他者の意図や感情の理解に関すること。	(1)保有する感覚の活用に関すること。 (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 (2)言語の受容と表出に関すること。 (3)言語の形成と活用に関すること。

項目と項目を関連付ける際のポイント
<p><自分の聞こえの状態を把握することや補聴器を適切に管理する習慣を身に付けるために> 健(2)、環(1)(3)を関連付けて設定した具体的な指導内容が アである。</p> <p><保有する聴覚を活用し、聞き取る力や正しい発音を意識して話す力を高めるために> 環(1)(3)、身(5)、コ(2)を関連付けて設定した具体的な指導内容が イである。</p> <p><話し手に注目して話を聞いたり伝えたりする態度を身に付け、周囲の人とやりとりする楽しさを味わうために> 心(1)(3)、人(1)(2)、コ(1)(2)(3)を関連付けて設定した具体的な指導内容が ウである。</p>

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	具体的な指導内容を設定する段階		
	ア 聞こえの状態を確認し、補聴器の電池の有無やイヤーマールド(耳型)の汚れ、正しい装用状態を自分で確かめる習慣を身に付ける。	イ 聞き取りクイズなどで必要な情報を聞き取る力を高める。正しい発音を意識する(サ行音・ツ音)。	ウ お話タイムにおいて身近な内容を話したり、聞いたりして、やりとりする楽しさを味わう。季節の言葉プリントなどで身近な言葉の理解を深める。

個別指導計画

【難聴通級指導学級】

氏名	〇〇小学校 1年〇組 (担任: 〇〇 〇〇)
児童の障害の状態等	<ul style="list-style-type: none"> ・両耳先天的感音性難聴 (平均聴力レベル右 58dB、左 65dB)。両耳に補聴器装用。 ・補聴器を装用して、概ね音声でのやりとりが可能であるが、話がずれてしまうことがある。 ・補聴器の電池が切れていても気付かないことがある。 ・班での話し合いでは、友達の声が聞こえずに、輪に入れないことがある。 ・指示が一度では通じないことも多く、個別に丁寧な言葉掛けが必要である。 ・周りをよく見て動いているが、聞こえなかったことや分からなかったことを周囲に尋ねることが難しい。 ・知っている言葉が少なく、言葉の覚え間違いも多い。発音が不明瞭な音がある (サ行音やツ音など)。
在籍学級での指導と配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手に注目し、話を確実に聞いたり伝えたりしようとする態度を育てる。 ・本児の考えを認めるとともに、周りの様子を見て行動する意識を高める。 <配慮事項> ・テニスボールを付けて、騒音を減少させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・座席を前から 2, 3 列目の聞き取りやすい側に配置する。 ・視覚教材を多く使い、見て分かる工夫をする。 ・教員は児童が注目していることを確かめてから話し始める。黒板を向いて話さない。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートや面談、授業参観などで、聞こえやことば、学習の様子について話し合い、本児の課題や目標を共通理解する。 ・家庭でのやりとりの配慮点、補聴器の自己管理の習慣などについて、相談、支援する。
長期目標 (年間)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の聞こえの状態を把握する力を高めるとともに、補聴器を適切に管理する習慣を身に付ける。 ・聴覚を活用し、語音を正しく聞き取る力や、正しい発音を意識して話す力を高める。 ・話し手に注目して話を聞いたり伝えたりする態度を身に付け、周囲の人とやりとりする楽しさを味わう。

	指導目標	学習内容	評価
前期	<ul style="list-style-type: none"> ○聞こえの状態について理解し、補聴器を適切に管理する意識を高める。 聞き取る力を高め、正しい発音を意識する。 ○身近な内容を話したり、聞いたりしてやりとりする楽しさを味わう。 	補聴器について <ul style="list-style-type: none"> ・電池チェック ・クリーニング ・聞こえの状態 お話タイム 季節の言葉プリント グループ活動 聞き取りクイズ サ行音・ツ音の発声練習	<ul style="list-style-type: none"> ・入学後しばらくして、補聴器の使用が定着した。聞こえにくさや補聴器の大切さについて自覚し始めた。電池の交換にも慣れ、一人でできるようになったが、電池切れに気付かないことがある。 ・お話タイムでは休日の出来事をホワイトボードにメモした後、文章にして発表した。間違えて覚えている単語はその都度確認した。 ・聞き取りクイズでは、静かな個別の場面では口形を提示せずとも、単音・単語・数字ともに聞き取ることができている。学級内で話し合い活動があるときなど、聞き返しも多く、会話が成り立たないこともあるので、引き続き聞き取りの力を高めるとともに、視覚的な補助手段も使いながら、コミュニケーションの力を高めていく。 ・発音練習では、サ行の音が単語レベルまで意識すればほぼ正音で発音できるようになった。短文レベルでも意識できるよう、練習を重ねる。
後期	<ul style="list-style-type: none"> ○聞こえの状態について理解し、補聴器を適切に管理する習慣を身に付ける。 ○聞き取る力を高め、正しい発音を意識する。 ○身近な内容を確実に伝えたり、相手の話を最後まで聞こうとしたりする意識を高める。 	補聴器について <ul style="list-style-type: none"> ・電池チェック ・クリーニング ・聞こえの状態 お話タイム 季節の言葉プリント 絵本読み グループ活動 聞き取りクイズ サ行音・ツ音の会話レベルでの般化	<ul style="list-style-type: none"> ・補聴器の扱いに慣れ、電池チェックや交換が一人でスムーズにできるようになった。 ・前期はお話タイムに話したいことがまとまらず、時間を要していたが、後期はヒントがなくても、「いつ」「どこで」などの質問カードに沿って話すことができるようになり、自信がついてきた。 ・学校や図書館で借りた本の音読では、スラスラ読めるものの、意味を理解していない単語や文章もあり、その都度丁寧に確認を行った。 ・グループ活動では、同じ難聴の友達との交流を非常に楽しんでいて、補聴器を使用している友達が他にもいることがとても嬉しかったようで、その後も友達の補聴器の色やイヤーマーモールドの模様のお話を繰り返している。 ・聞き取りクイズでは、個別指導の静かな場面では概ね聞き取れているが、長い文章になると混乱することがあった。今後は、聞こえにくさだけでなく、聞いたことをイメージする力や記憶力を高める課題にも取り組む。 ・発音練習では、サ行音・ツ音が会話内でもほぼ置換せずに正音で発音できるようになった。構音検査では単語レベルで全ての音を正音で発音できるようになった。